



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

東南アジアの伝統衣装 5カ国が共同申請

東南アジアの伝統衣装、無形文化遺産へ



マレーシアやシンガポールなど東南アジア 5 カ国は、女性の伝統衣服「ケバヤ」の国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録に向け、共同申請を行った。多くの伝統文化は国境を越えて根付いており、過去には 1 カ国による単独申請がいざこざの種になるケースもあった。共同申請の 5 カ国は「過去最多」で、東南アジア諸国の協調ムードも演出できた。

かつては「横取り」批判も

単独申請は禍根を残すリスクがある。シンガポールでは 2020 年、ホーカーセンター（屋台村）が国内第 1 号の無形文化遺産に登録された。多様な食が庶民的価格で提供されるホーカーは「多文化社会の象徴」と政府は胸を張った。しかし、同根の文化を持つマレーシアからは「屋台はシンガポールだけの文化ではない」「横取り」「こちらが本家」と反発する声が続出し、後味の悪さを残した。

インドネシアが歩み寄り

その点、東南アジア 5 カ国は今回、共同申請にこぎ着けた。マレーシアが提案し、シンガポール、ブルネイ、タイが賛同。「ケバヤは国民服」と自負するインドネシアが国会の意向もあって単独申請を試みたため、申請が分裂する恐れがあった。しかしインドネシアは最終的に歩み寄り、文化遺産で例のない最多 5 カ国での共同申請が実現した。（ArayZ ONLINE）



インドネシアで着られているケバヤ



シンガポール航空の制服であるサロンケバヤ



マレーシア航空の制服であるサロンケバヤ

「シンガポールと日本の違いは何ですか」という質問は受験生が面接時によく聞かれる質問です。塾でも面接練習をしますが、ほとんどの子供達が「シンガポールは多民族国家で…」と話し始めます。もちろんそんなことは聞く側も分かっていますから、「多民族国家だから何なのか」を自分の経験から語れるようになってほしいです。私はシンガポールの人は、他者と折り合うことが上手な一面があると思っています。ホーカーセンターひとつとっても、人々が他者に配慮して過ごすシーンは多く見られるのではないのでしょうか。今回の記事は各国が譲歩して協力した一件でありますし、今回小学 3 年生から中学 2 年生に実施する総合学習にも関係性があるため、ぜひシェアしたいと思いました。せっかくシンガポールで暮らしているので、顔をあげて、周り観察して、シンガポールの良いところをたくさん見つけていきたいですね。（谷口）